

# 札幌市住まいの協議会

## 第3回 市営住宅小委員会 議事録

### (1) 日時

平成22年6月11日(金) 13:30～16:00

### (2) 場所

札幌市役所本庁舎地下2階 1号会議室

### (3) 次第

- 1 開会
- 2 報告事項
  - (1)第2回市営住宅小委員会議事要旨・議事録について
  - (2)第2回民間住宅小委員会の審議内容について
- 3 審議
  - (1)課題に関する今後の方向性の検討について
  - (2)次回のスケジュールについて
- 4 閉会

### (4) 出席委員

委員長 谷本 一志 東海大学国際文化学部 教授  
委員 五十嵐智嘉子 (社)北海道総合研究調査会 常務理事  
委員 高橋 浩子 公募委員  
委員 細貝 政道 (社)北海道宅地建物取引業協会 専務理事

### (5) 議事概要

#### (開会)

#### (住宅担当部長挨拶)

#### (報告事項)

#### (審議)

##### 供給方針の明確化

- ・財政負担が大きいから、市営住宅の新規供給を停止して管理戸数は当面現状維持とするということだけではなく、民間住宅を含めて札幌市における住宅確保についての基本的な考え方の整理が必要ではないか。
- ・市営住宅の管理戸数を現状維持とするのであれば、住宅確保要配慮者への対応もきちんと行うべき。

- ・既存民間賃貸住宅の借上については、古い住宅の有効活用の観点からも検討を進めるべき。
- ・空室の多い既存民間賃貸住宅であれば、残りの方々に移転してもらって、1棟丸ごと市が借り上げることも、できないことではないと思う。

#### **既存住宅の維持管理**

- ・既存市営住宅へのエレベーター設置について、設置費用についてだけではなく、例えば高層階に要介護者が住んでいる場合の介護費用の社会的負担など、エレベーターを設置しなかった場合の社会的なコストの観点からも考える必要がある。
- ・建替のときに、利便性の良い場所については、まちづくりや福祉施設も含めた使い方で高層化していくと有効利用に繋がる。

#### **入居時の配慮、市営住宅内外の世代バランスの配慮**

- ・ケアつき住宅や市営住宅等に移転後の高齢者の持ち家を子育て世帯に貸すなど、住替や住宅の活用がスムーズにできれば、住宅確保要配慮者の何%かは解消されるのではないか。
- ・団地のコミュニティのことを考えると、若年枠のような考え方は導入した方が良いと思う。
- ・若年枠により、市営住宅へ入る場合はコミュニティ活動への参加を義務化するなど、コミュニティの形成について明確化した方が良いと思う。
- ・困窮だけを高くし過ぎるのではなく、多様な人が集まる空間にしたほうが良いと思う。
- ・ポイント制も若年枠もモデル的に行い、課題を洗い出しながら順次進めるべき。

#### **市営住宅入居機会の確保**

- ・住替えはミスマッチを解消する意味で必要であり、広い住宅に1人で住むことは他の人が入居機会を失いかねない。
- ・入居条件の厳格化に尽きるのではないか。毅然たる態度で対応しなければ、いつまでたっても解決しないのではないか。

#### **福祉施策・まちづくり施策との連携、民間事業者との連携**

- ・保育ママ制度が4月から制度化されたため、そういうものの誘致やそこで仕事をできるようにするなど、低所得者対策を合わせて行い、困窮者を困窮でなくすることが1番の課題ではないか。
- ・公営住宅の一部にミニデイサービスを付けて近隣のお年寄も利用でき、さらに保育ママ制度も導入するなど、まちづくりを仕事づくりと合わせる方法などを考えていくと面白いと思う。

(閉会)